

佳作

生き物を大事にしよう

三光小学校 池崎 功汰

皆さんは、生き物をどう思っていますか？

私達の生活は沢山の種類の生き物に色々な形で支えられています。

植物は二酸化炭素（CO₂）を吸って酸素を作ってくれます。動物は僕達に食糧を与えてくれ、時にはかわいいペットとして心を癒してくれます。海岸は津波が来た時にクツションのような働きをしてくれて波の被害を少なくしてくれます。森林は豪雨の時に土砂崩れを防いでくれます。ミズは土を耕し、クモは害虫を食べてくれ、ハチは花の受粉の手助けをし、その上私達に美味しいハチミツを与えてくれます。

このように嫌がられている小さな虫でもしっかりと何かの役に立っていて、直接はあまり関係ないかもしれませんが、知らず知らずに私達は共存共栄しているのです。

しかしその大切な私達の関係が壊れつつあります。

原因は人間のわがままな行動です。その一つに、人間が外来種のペットを大きくなりすぎたからとか、世話が面倒になったなど、さまざまな理由で、無責任に川や山へ放してしまう人がいます。これら外来種のペットは、日本の生

き物のえさを食べてしまったり、住みかを奪ったりして元からいた生き物達の生活をおびやかしているのにもいます。でも、外来種は悪くありません。ただ生きていくのに必死なだけなんだと思います。

それに人間が沢山の生き物を食糧として獲りすぎたため、絶滅の危機に瀕している生物もいます。私達の食卓に親しまれてきた僕の大好きなクロマグロは、近い将来食べる事が出来なくなるかもしれないのです。

海外では無計画な森林伐採で砂漠化などの環境破壊も進んでいます。ここでも人間のわがままな行動によって元からいた生き物達や私達人間の住みかが減ってしまっているのです。

そして急激な発展に伴い、より快適な生活、便利さを求めるあまりに、もっと深刻な問題、大気中の温室効果ガス濃度が増加したことによって引き起こされた、地球温暖化という現象も地球上の様々な生物に影響を与えています。海水の温度が上昇してサンゴ礁が死んでしまい、海の中の生態系が崩れることで私達が食べられる魚が減ってしまい獲れなくなったり、南極の氷が溶けて海水面が上昇し、海岸沿いに人が住めなくなったりしています。遠いどこかの国でおきている事で日本は大丈夫と思っただけはいけません。同じ地球に住んでいるのだから、一人一人の思いがあります。同じ地球に住んでいられるのだから、一人一人のできる事は小さいことかもしれませんがこれらを防ぐためにどうすれば良いか同じ目的をもって取りくみ行動し、お互いに協力することが大事だと思います。

では僕達には、これ以上生き物達の住みかを奪わない、温暖化を防ぐために、一体なにができるでしょうか？

まず、CO₂の排出量を減らすことです。例えば冷房の温度を二十八度を保つたり、スーパールのレジ袋を使わずエコバッグを使用したり、植林のボランティアに参加して緑を増やすことで、私達が排出するCO₂の量を減らすことができます。又、テレビをつけっ放しにせず、使っていない部屋の電気をこまめに消す事も大事です。ちよつとしたことですが、みんながすれば、沢山のCO₂やエネルギーを減らすことができると思います。

そして日本の科学技術の進歩も、温暖化防止に効果があります。最近流行っているハイブリットカーや、現在研究が進んでいる電気自動車などは、CO₂を抑えたり、排出しない好例です。もう少しすれば、CO₂を酸素に変えてくれるすごい技術が生まれるかもしれません。

もちろんペットを無責任に放さないとか、生き物を沢山獲りすぎないなど、一人一人が出来る事を心掛ければ、絶滅危惧種やそのほかの生き物も豊かな自然にまた戻っていくと僕は思います。